

森村誠一「人間の証明」の舞台

霧積温泉～鼻曲山

実施日 2010年5月16日(水)～17日(日)

天候 晴れ

リーダー 馬場 清士

参加者 渡辺清、佐藤金治、一柳昭、馬場清士、島本陳重、鈴木政三、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄 計 11名

費用 交通費 7,000円 宿泊費 11,700円

タイム 16日 横川駅(14:55 迎車)霧積温泉金湯館(15:40)泊
17日 金湯館(7:30)鼻曲峠(9:30)鼻曲山(9:45～10:20)鼻曲峠(10:30)留夫山(11:20～12:10)一の字山(12:43)旧碓氷峠(13:15)軽井沢駅(15:10)

16日 信越線横川駅を降りると、霧積温泉金湯館と書いた年代物のマイクロバスが待っていた。

金湯館のご主人佐藤さん(80歳)がニコニコ顔で出迎えてくれた。早速バスに乗り込み、霧積川と平行に走る北軽井沢松井田線を遡る。

霧積湖を過ぎ、新緑の中、谷筋の道を金湯館に向かう。金湯館は山奥の一軒宿、水車が回り新緑の中に湯宿の風情がある。38度の温泉にゆっくり浸かり、夕食は山菜づくしでもてなしてくれた。



17日 快晴、7時30分朝食を済ませ宿を後にする。

昨日来た林道を少し戻り、樹林の急坂を登って行く、カエデやブナの新緑が美しい。



1時間ほどで分岐に出で左に鼻曲山を目指して行く。稜線の樹林はすっかり吹きが始めると、

樹林越しに浅間隠山が望める。次第に道がきつくなり、天狗坂の急登を登ると鼻曲峠だ。鼻曲峠から最後の急登を登りきると大天狗と呼ばれる東の山頂で、妙義の山々が霞んで見えるが、灌木が多くあまき眺めは良くない。わずかに下って登り返すと、西側の山頂、小天狗に出る。



浅間山、浅間隠山を初め雪を被った苗場山、谷川岳、四阿山、草津白根山が見え、遠くに新潟の山々が霞んで見える素晴らしい展望が開けている。

鼻曲峠まで戻り稜線の長い登りを留夫山へ向かう。山頂の展望は無いが、ここで昼食タイムとした。留夫山から一の字山までは火山灰の急坂を下る。一の字山を過ぎ雑木林の道を行くと、霧積温泉と旧碓氷峠を結ぶ中山道に出る。熊野皇大神社が建つ所が旧碓氷峠だ。見晴台を経て沢沿いに下り、別荘地の中を歩き車道に出る。



軽井沢銀座の商店を覗きながら軽井沢駅に向かった。

山菜料理と新緑がとても美味しかった2日間でした。黄葉の時期がまた素晴らしい宿と山でしょう。

参加された皆さんお疲れ様でした。
(記&写真・馬場 清士)

